

令和6年度 第3回 宮原小学校学校運営協議会議事録

さいたま市立宮原小学校

- 1 日時・場所 [日時] 令和7年2月20日(木) 10:30~12:30
[場所] 第1会議室

- 2 出席 委員 森下 佳代 宮原児童センター館長
中山 和義 宮原地区自治会連合会副会長
清水 猛 鍛冶自治会長
嶋村 茂 宮原地区社会福祉協議会会長
清水 浩 近隣幼稚園・保育園代表
白石 王恵 チャレンジスクール教室コーディネーター
佐藤 幸枝 主任児童委員
清水 ヨシ子 宮原地区民生委員・児童委員協議会長
青木 洋 宮原中学校学校地域連携コーディネーター
(田中 和浩 宮原中学校長が代理出席)
井上 雅史 宮原小学校校長
長沼 幸男 宮原小学校学校地域連携コーディネーター
欠席 委員長 関根 俊幸 宮原公民館長
副委員長 川嶋 隆 宮原小学校PTA会長
岸 文夫 大宮交通安全協会宮原支部長

3 次第

- (1) 開会
- (2) 学校評価の結果について
- (3) 学校自己評価システムシートについて(評価)
- (4) 熟議
「安全・安心な学校づくりをどのように進めていくか」
○令和6年度の協働活動について(報告)
○令和7年度の協働活動(案)について
- (5) 令和7年度学校経営方針について

4 議事概要

- (1) 学校自己評価システムシートについて

【校長】

- ・「書くこと」「読むこと」に課題が見られるため、今年度は国語科を中心とし

た子どもたちの読解力の向上に向けて校内で研究をしてきた。

- ・テキストをしっかりと理解して、考えを伝える力を身に付けることができるように、授業の中での振り返りを大切にしてきた。
- ・ICTについては、適切な場面で活用できるように努めている。次年度も引き続き取り組んでいきたいと考えている。
- ・安心・安全については、けがの減少に向けて「けがマップ」の作成や、子どもたちによるポスターづくりなど、取組を進めてきた。しかしながら、けがの数の減少までは至らず、課題として残っている。
- ・施設・設備の点検、修繕については確実に実施してきた。センダンについては、文化財保護課と協議をし、樹木医に見ていただきながら剪定を行った。
- ・コミュニティ・スクールについては、広く情報発信を進めてきた。「お互いの顔がわかる」ための取組を継続していきたいと考えている。
- ・教職員に関して、ICTの活用についてのアンケートの結果や研修等から、前向きに取り組む様子が見られる。この点については、終わりはないことから、引き続き、取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

- ・学力向上について、ICTの活用率が上昇していることから大変よい取組が行われているのではないかと考える。今後、効果的な使い方について見極めていくこと、また、問題点を洗い出し、改善に取り組むことが大切になると考える。
- ・デジタル化が進む中で、見る学習に偏ってしまう懸念がある。書くことやアウトプットすることにも力を入れてほしい。
- ・学校が子どもたちの弱いところを把握し、策を練って計画的に取組を進めることは、大変素晴らしいことである。
- ・読解力は、国語の学習のみならず、社会の問題を解決することにもつながることから、よい取組を進めてこられたと考える。
- ・日本語の大切さが子どもたちに理解されるよう、今後も取組を進めてほしい。また、キーワードの1つとして言語活動の充実が掲げられているが、基盤となるのは言語環境であると考え。学校内の言語環境を整える意味でも、教職員の言葉遣いを振り返ってみる必要があると考える。
- ・学校や地域で安全指導や見守りが行われていることは、保護者にとって安心につながる。PRをしていくとともに、地域には保護者の方も含まれるという理解を深めていくことも大切だと考える。

(2) 熟議

テーマ：「安全・安心な学校づくりを進めていくために、施設や木々等の維持管理、景観問題への対応をどのように行っていくか？」

○令和6年度の協働活動について

- ・学校運営協議会スローガン「つなげよう あいさつ 伝えよう ありがとう 深めよう きずな～学校・家庭・地域が手を取り合って～」の具現化に向け、令和5年度は挨拶運動を行い、令和6年度は挨拶の推進に向けてどのようにすればよいか協議し、学校だより等であいさつを奨励するなど取組を進めてきた。
- ・小中合同の挨拶運動にも継続的に取り組んできている。
- ・第2回の学校運営協議会において、挨拶についての取組を継続しつつ、さらに地域と子どもたちが顔見知りになっていくこと、課題でもある安全・安心な学校づくりを進めていくことをねらいとして、子どもたちとの環境美化活動を行ったところである。
- ・子どもたちと一緒に落ち葉拾いを行ったが、活動しながら色々な話ができてよかった。自分から声をかけてくれる子もいて楽しく活動できた。回数を増やすとよいと思う。
- ・レッツ・ジョイン・クリーン活動の集積場所を学校にするのもよいのではないか。

○令和7年度の協働活動について

- ・明治5年5月30日の開校し、令和7年度で開校153年目を迎える。そこで、毎月30日を「宮原小協働活動の日」として、子どもたちと地域との環境美化活動を行うのはどうか。
- ・コロナ禍の影響で減ってしまった人との関わりを戻すために、「宮原小に愛をこめて」と題して、年間で計画をしていくのはどうか。
- ・1000人を超える子どもたちが一斉に活動を行うのは難しいため、学年で分けるなど工夫していく。
- ・子どもや保護者等、色々な方と話す機会があつてよい。
- ・朝の時間に設定すると、参加する方も都合がつきやすいのではないか。
- ・除草作業だけでなく、子どもの手が届かないところを水拭きするなど、校内の活動も行っていくとよい。
- ・取組後はアンケートをとり、次年度の学校運営協議会にフィードバックを行っていく。
- ・地域への周知は、学校だよりの配付と併せて行っていく。

5 諸連絡

1年間の御礼と次年度委員選出に関することについて連絡をした。

6 閉会

閉会后、給食会食を実施した。